

# 12がわのくもの子の会だより

〈11.30.11.27〉

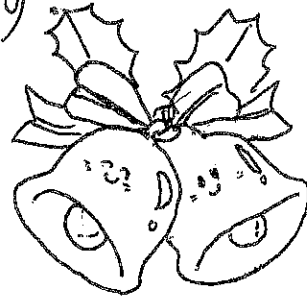
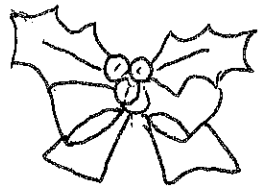
～ 親の言葉が子どもの性格をつくる！ ～  
(ガミガミ、フドフドが与える影響) <奏野悦子>

師走ですわ...。この一年、みなさんいかがでした、たゞ(よう)か...。  
このくもの子の会は、平成3年より始められ、私が途中から引き継ぎ、  
今現在まで続けてきています。一人でも参加される方が  
いら、お子様限り続けたいという方も、ごきごきですが、一組  
もいらなくなると、どんなにか来られませんかとも思いつながら、  
毎週金曜日に活動しています。以前(5、6年前位)までは、  
20組～30組の方が参加されていたのですが、時代の流れ  
と、変化を改めて感じますわ。(年賀状で、成人式、写真や  
報告があったり、みなさん大きに成長しています)

来年もこの子、子育て交流保育として、すきな歌や、リズムあそびや、  
わらべうたあそび、絵本の読みかきなどを伝えて、少しでも子育て  
応援の場としてやっていければと、思っています。

今年も、このおたよりをよんでくださったり、参加して下さったり  
くもの子の会を応援してくださる方々、ありがとうございます。  
少し早いですが、来年もどうぞよろしくお願ひ致します

(1月は、11日から始めます)



子どもの年齢や状況を選ばず、即座に対応し、しかり  
と注意してほしい緊急場面とは、子ども自身に危険が  
生じる場合と、人に迷惑をかける場合です。  
子どもを叱るのは基本的には、この2つの場面です。  
子どもの年齢にふさわしい「生活習慣」や「社会のルール」  
マナーなどを身につけさせることは、家庭で大人が伝えていく、  
いわゆる「しつけ」に該当します。

適切な振舞いのできる子に育つようには「叱る」「ほめる」  
これは、子どもにとって必要なことです。しかし、子どもの興味  
や関心が広がり、活動が活発になってくる幼児期  
後半になると、上手に叱るのは、なかなか難しいですわ。  
子どもが何をするにせよ、親の言うことに反発したりすると、  
ついイライラして怒ってしまいがちです。でも、子どもは  
親の影響を強く受けて育ちます。叱り上手な親にな  
り、親子の良い関係の基礎をつくり上げていきます。

<親が思っている以上に子どもの感性は鋭い>

まだ言葉を話さない1歳になる前の子どもでも、大人の  
話しかけによる抑揚やリズムから、大人の意図や感情を  
感じ取る事ができます。子どものアンテナは親が思っ  
ている以上に感度が高く、親の不用意な言葉や、

イライラが反映したような感情表現が、子どもの心にネガティブ・メッセージとして残り、時には子どもの性格、成長にダメージを与える場合もあります。

親は、言い過ぎた、言い方が悪かったなどと、罪悪感を残さないような伝え方をしなさい。



ですが、また同じようなことをするので、親のイライラがさらに募るようになります。

<「否定的」な叱り方をされていると……>

→(「自信がない子、人を妬む子」に)

繰り返して出されると、子どもは自分自身を否定されたと感じ、「自分はダメな人間だ」というレッテルを自分で貼ってしまい、劣等感をもつようになります。劣等感を強く抱くと、自信がなくなり、人の成功を妬むようになります。やってみたいという気持ちよりも「やっても無駄。頑張ったのに叱られるのなら、やらなくても同じ」と思うようになります。自尊心の低い子どもになってしまいます。

<「感情的」な叱り方をされていると……>

→(「人の顔色を気にする子」に)

感情的な叱り方は、なぜ叱られたのかを伝わらないうえに、子どもをとても混乱させ、叱られたという強い思いだけを残してほうもの。このような経験を積み重ねると、子どもはやがて親の機嫌によって叱られるのだと判断し、「今はどうなのか」「大丈夫かな」と、親の顔色を見るようになります。そのため、友達や他の大人と行動するときも、相手の顔色を気にする消極的な子になります。

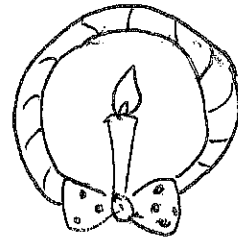
<お母さんの「叱り方」で子どもの性格は変わるよ！>



～ NGな叱り方は子どもを追い詰める！～

「生きる力」の基礎は、自尊心、つまり自分自身を価値のある者だと感じ、自分を大切に思える感情の育ちであるといわれます。

自尊心は、人の関係性の中で育ちます。自尊心が低いと、子どもはうまくいかないと感じたとき、自分を責め、「自分には、生きている価値がない」と思い詰めてしまいます。また、自分ができていることができない他人を認められず、「こんなことができない者に、生きている価値はない」と考え、周囲とぶつかりやすくなってしまいます。



しかもそれだけでなく、「できない自分」を認められず、人に頼ることもできず、何でも自分一人で頑張ろうともしてしまいます。結果的に、どんなに能力があっても、生きづらさや孤独感を抱えるようになってしまいます。



<「支配的」な叱り方をされていると……>

→(「自発性や積極性がない子」に)

親が何でも世話を焼いてしまうパターンです。厳しく叱ることで、恐怖でやらせたり、押さえ込むパターンもあります。親が何でもやってしまうので、自分で考えて行動することが苦手になり、従順で、自発性や積極性に乏しい子どもになってしまいます。この叱り方では、その場だけはやらせたり、押さえつけてたりでき